

## Ⅳ-1 思春期の子どもの気持ちをわかっていますか？

思春期真っ只中の子どもに日々悪戦苦闘しているお父さん、お母さん。または、これから思春期に入ろうとする子どもを抱えているお父さん、お母さん。

お子さんによって、思春期もいろいろですが、この時期をよりよく乗り切っていきたいというのがみんなの願い。お互いに知恵を絞って、思春期の子どもとのよりよい関係づくりについて考えてみましょう。

### ♪エピソード♪

父、母に、「早く寝なさい。風邪をひくから…」「あわてて行くと事故にあうから横断するときは左右確認ね。」「朝はきちんと食べなきゃ倒れるよ。」ひとつひとつみんなわかりきっている事で「はい、はい」と答えるのがわずらわしくて「わかってるよ」「うるさいな」「また同じこと言って！」と反発していた昔。

今、三人の子供の母親になって言われたことをそっくり同じこと言ってる自分にフ、フ、フ、と思わず笑ってしまう。

親の愛情ってころばぬ先のつえ。

今ならわかるな 私も。

素直に言えそう。

「お父さん、お母さん、ありがとう」。

【出典】平成17年度家族への愛のメッセージ 優良賞 篠崎 純子さん

### ワーク1 エピソードを読んで、どんなことを感じましたか？

○思春期の頃の子どもの気持ちについて

○今の「私」の気持ちについて

### ワーク2 最近、お子さんが変わってきたと感じたことはありますか？

こんな時に…	こんなところが変わってきた…

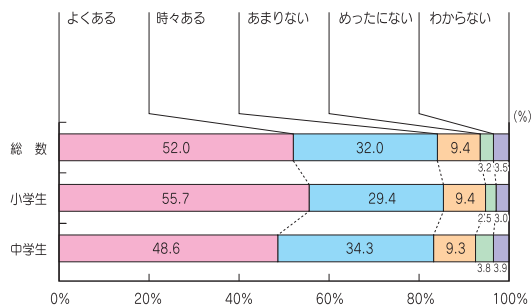
### ワーク3 思春期の子に対してどのように接していけばよいのでしょうか？

○思春期の子どもの特性として、どんなことが考えられますか？

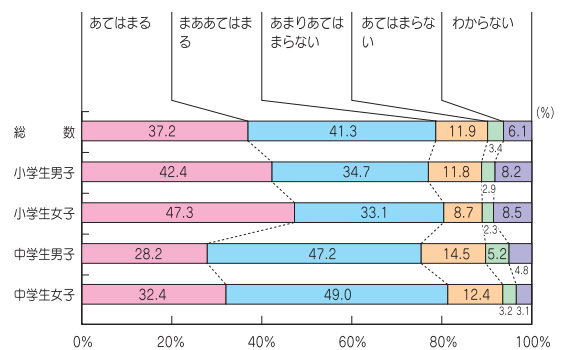
○思春期の子どもと、どんな風に接していったらいいと思いますか？

#### 資料

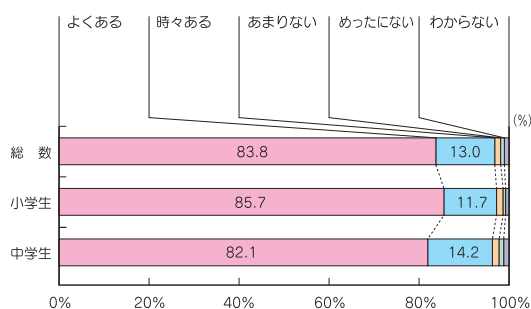
① お父さんと話をする（小・中学生別）



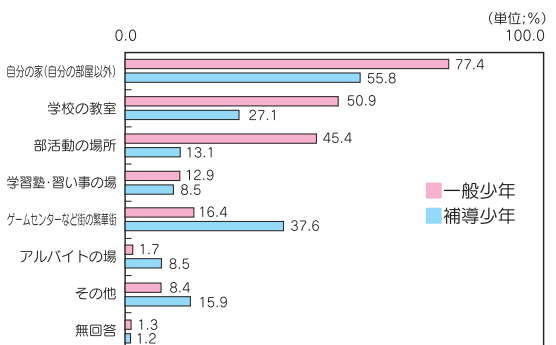
③ 親は自分のことをわかってきている



② お母さんと話をする（小・中学生別）



④ 自分らしくふるまえる場(自分の部屋以外)はどこか



注 ①②③は、平成12年度「低年齢少年の価値観に関する調査」 総務庁青少年対策本部（当時）

④は、平成12年度「青少年の社会的適応能力と非行に関する研究調査」 総務庁青少年対策本部（当時）

## Ⅳ-2 子どもとのコミュニケーション大作戦！

最近、お子さんとコミュニケーションをとっていますか？お子さんの良さを認めて、直接ほめていますか？お子さんを心配するあまり、小言ばかり…ということはありませんか？  
コミュニケーションをとれと言われても、何を話したら、お子さんと一緒に、何かを楽しんだり、取り組んだりすれば会話が弾むはず。皆さんで作戦をたててみましょう！

### ♪4コマまんが♪



まんが「平成16年度 家庭教育資料『思春期の子どもを理解するために<第1巻>』より 渡邊芳子さん

**ワーク1** あなたの家で、このような場面はありませんか？あなたにもこのような時期がありましたか？グループで話し合ってみましょう。

○あなたの家で・・・

○あなたが思春期だった頃・・・

**ワーク2** 最近、あなたはお子さんと、どんな話をしましたか？それはどんなことを一緒にしていた時ですか？グループで話し合ってみましょう。

どんな話をしましたか？	それは何を一緒にしていたとき？

**ワーク3** お子さんとのコミュニケーションを更に深めるとしたら・・・ どんなことを一緒にしたいですか？ グループで話し合い、実現するための作戦を立ててみましょう。

○あなたが一緒にしたいと思うこと

○グループで作戦会議

一緒にしたいこと	実現のための作戦

**僕は寂しい人なのです**

「ねえ、電話相談とが言って、たとえば、おれたちとしゃべって何か面白いわけ？」。理屈っぽそうだけれど、明るさも有り、元気そうな少年だ。中三だと言っ。

「面白いかって、あらためて問われると困るけど。」

「おれたちのためになるとか、役に立てるかと思ってやってんだったら外れだね。」

「役に立ちたくない訳じゃないけど、役に立てるのは限らない。」

「へえ、じゃなむで電話相談やってるわけ？」。

「図星を突かれ、こちらも本音で答えるしかなら。」

「うーん。よく考えさね。そうか、私、生きてるからだ。生きてるってことは、何かしら、やるってことかもしれないからね。答えとしてはキザかしらねえ。」

「ねえ、あなただって、なぜ電話かけてくれたの？ 考えてみて。」

「暇だから、遠慮してただけ。」

「あら、暇も遠慮も生きてるってことか。生きてるから、暇になりたり遠慮になったりするのよ、きっと。おあいこだ、私たち。」

「私は少年と話せた手応えに少しはしゃいだ。」

「あなたって、楽天的だね。変な大人。大丈夫かよ。」

「うめんなさい。うけなかったかしら？」

「謝ることもないよ。大人として普通だと言っただけ。」

「ありがたう。うーん、こんな話、家でしないの？」

「しないよ。おやじもおぶくろも忙しいからだと想うけど、あなたみたいに、まともに入話の聞かないよ。ちょっとは考えさねるふりをするけど、まともな答えさねなんってことない。しゃべるの無駄なんだよ。」

「うーん、さ、普通か。」

「こんな時、私はそう言っべきなのかどうか、いつも迷うのです。なぜなら、こんな子は日本中に大勢いそうだし、だからといって親と話して無駄とさういふを普通とさういふとは思えないからです。」

(電話相談員)

下野新聞 平成十七年九月十三日  
「電話の中の子どもたち」より

**ふりかえり** プログラムをとおしてどんなことに気づきましたか？